



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小
～ 明日が楽しみな学校をめざして ～」

隈府小学校
学校だより No.20
文責 芹川博文
10月2日(金)

「信じて待つ」ことの大切さ ～ 雨の日に見つけた 桜苗木の若芽と花 ～

今週は、雨の月曜日で始まりました。先週からまとまった雨が降り続いた朝の登校時間、嬉しい「発見」がありました。それは桜です。桜の苗木から黄緑色の若芽、そして、なぜか季節外れの桜の花まで咲いていました。

夏休みに入ってから、いつも隈府小を見守っていただいている近所の方から、「枯れよるばい」と、正門の桜の苗木のことを教えていただきました。原因は猛暑と水不足。「しまった」と思っても「後悔先に立たず」。今年の3月、卒業生が植えた若木を、枯らしてしまうかもしれないという申し訳なさ、毎日その場所を通りながら気付かなかった己の鈍感さを反省しながら、バケツに汲んだ水を与えました。役場の方にも何度も水かけをしていただいたようです。しかし、若木8本の内、6本は葉を無くしました。古くからある大木の桜は、猛暑の中でも全く関係ないように葉を茂らせています。「大人（大木）と子ども（苗木）」の違いと、必要な時期に目を離さず手を掛けることの大切さを痛感しました。

暑さが弱まってからも全く変化なし。「もうダメかも」と不安も感じていた時に発見した今回の新芽と桜の花。「元気になったよ!」と、思いっきり表現しているように見えました。今のところ、残りの4本からは全く若芽は出ていません。しかし、時期が来れば若芽を出すことを期待させてくれた発見でした。「信じて待つ」ことの大切さを改めて感じました。そして、雨の大切さも。



虹が架かる空には 雨が降ってたんだ

虹はいずれ消えるけれど 雨は 草木を育てていくんだ SEKAI NO OWARI「RAIN」より

「熊本地震で被災された方々のために」 ～ 来週の火、水曜日の2日間 児童会で募金活動します ～

シルバーウィークの最終日、高速道路を利用する機会がありました。熊本地震以来初めて通過する八代―益城間。近づくにつれ緊張を感じました。対面道路のかなり前から渋滞が始まり、道路の段差を何度も感じました。シンボルだった煙突の見えない八代の街並み、そして氷川、宇城、御船、益城とブルーシートがかかった家々を見て、今回の地震の影響が、かなり広範囲だったことが分かりました。しかし、同時に、「高速道路からでは見えない」ということをつくづく実感しました。

「入ってもいいですか」。先日、児童会三役 6 名が校長室で、「熊本地震で被災された方々のために募金と応援メッセージを届けたい」という思いを熱く語ってくれました。募金は来週10月6日(火)と7日(水)の2日間。応援メッセージは各クラスで1枚ずつ書き、それを合わせて隈府小の1枚にして送るとのこと。児童会担当の先生からも「時間はかかるかもしれませんが、自分たちで考えて動くのを待ちます」と、以前から聞いていました。

熊本地震から2か月が経ちました。今も約1500人が避難生活をされ、水が出ない生活をされているとのこと。様々な厳しい状況の中、踏ん張っておられる方々の姿を通して、大切なことに気づかされます。忙しさに流されていた自分にも。

前期最後の週となりますが、隈府の子どもたちの優しい思いと行動する姿を楽しみにしています。募金の先の、踏ん張っておられる方々も想像しながら。

「急ぐ」 谷川俊太郎

こんなに急いでいいのだろうか
田植えする人々の上を
時速二百キロで通り過ぎ
私には彼らの手が見えない
心を思いやる暇がない
この速度は速すぎて間が抜けている
苦しみも怒りも不公平も絶望も
全てが流れていく風景
こんなに急いでいいのだろうか
私の体は小さな速達小包
私の心は消印された切手
しかもなお間にあわない
急いでも急いでも間にあわない